

# 釜 塩 風 渡 佐 房 工 塩

しお がま と かざ さい ぼう こう しお



## 佐 渡 の 塩 っ て ？



年 組 名前

わたし　　そせん　　うみ　　りく　　あ  
**私たちの祖先は、海から陸へ上がってきたといわれています。**  
 なが　　れきし　　にそくほこう　　しんか　　たいえき  
**長い歴史をへて二足歩行に進化した「ヒト」の体液は**  
 うみ　　せいぶん　　おな  
**海のミネラル成分と同じだといわれています。**  
 わたし　　い　　しよくもつ  
**私たちが生きていくうえでなくてはならない食物のひとつに**  
 しお　　じゅうよう　　いち  
**「塩」はもっとも重要な位置にあります。**

## も　く　じ 目　次

にほん　しおづくり　れきし 日本の塩作りの歴史	-----	2 ページ
さど　しおづくり　れきし 佐渡の塩作りの歴史	-----	4 ページ
しおこうぼう　さどかざしおがま　しお　つく　かた 塩工房 佐渡風塩釜での塩の作り方	-----	6 ページ
めおといわ　でんせつ 夫婦岩の伝説	-----	8 ページ
めおといわでんせつ　ようごかいせつ 夫婦岩伝説の用語解説	-----	10 ページ
参考資料（日本紀略 抜粋）	-----	12 ページ

# 日本の塩作りの歴史

日本の塩作りは、海水から濃い塩水《漉水》を作り濃い塩水を採取する作業《採鹹》、それを煮つめる《煎熬》という方法で工夫を重ねてきました。どんなふうに塩をつくってきたのかを見てみましょう。

## 塩作りの専門用語

鹹水(かんすい)

海水より塩分濃度の濃い塩水。

採鹹(さいかん)

濃い塩水を採取する作業。

煎熬(せんごう)

漉水を煮つめること。

<p>じょうもんじだいちゅうき ～縄文時代中期</p>	<p>もしおやき 藻塩焼き(1) 海藻を焼いてその灰を塩としていました。(灰塩が最終製品)</p>
<p>じょうもんじだいこうき 縄文時代後期 ～ へいあんじだい ～平安時代</p>	<p>もしおやき どき しょう 藻塩焼き(2) 土器の使用 ① 灰塩に海水を注ぎ、鹹水を採り、これを土器に入れ煮つめて塩をつくる。 ② 海藻を取って干しておく、ついていた海水が乾いて、海藻の表面に塩の結晶が付きまします。これに海水をかけると、ついていた塩が海水にと溶けて鹹水ができます。こうしてできた濃い塩水を土器で煮つめて塩を作っていました。 (古墳時代から佐渡でも製塩土器による塩が作られる。)</p>
<p>へいあんじだい 平安時代～</p>	<p>あげはましきえんでん 揚浜式塩田 海藻の代わりに砂を使う、「塩田」という方法が考え出されました。人の力で海水をくみ上げ、砂の上にまいて水分を蒸発させると、砂に塩の結晶が付きまします。この砂を集めて上から海水をかけて濃い塩水を作ります。 『塩釜』 煎熬の仕方も土器から石釜、鉄釜などの塩釜へと変わっていきます。</p>
<p>えどじだい 江戸時代～ 1959年(昭和34年)</p>	<p>いりはましきえんでん 入浜式塩田 広い干潟のある海岸では、潮の満ち干きを利用して海水を取り入れる方法ができました。浜溝に入った海水は砂地盤にしみこみ、毛細管現象で表面の砂に集まり、太陽に照らされて塩の結晶になります。人が海水を運ぶのに比べて楽になったのでたくさんの濃い塩水が出来るようになりましたが、塩のついた砂を集めるのはまだ人の力が必要で大変でした。</p>
<p>めいじ 1905年(明治38年)</p>	<p>6月1日「塩専売法」の施行</p>

たいしょう 1918年(大正7年)	しお せんばいせい こうえきせんばい 塩の専売制は公益専売となる
しょうわ 1927年(昭和2年)	ようしきしおがま おおがた てつせいひらがま 『洋式塩釜』(大型の鉄製平釜) めいじいこう せとないかい いりはましきえんでん ふきゆう 明治以降、瀬戸内海の入浜式塩田に普及しました。 じょうきりようしきしおがま 『蒸気利用式塩釜』 かま はっせい じょうき かんすい よねつ りよう ほうほう ごろ 釜で発生する蒸気を鹹水の予熱に利用する方法。1935年頃から ふきゆう 普及しました。 しんくうしきじょうはつかん 『真空式蒸発缶』 さいしよ こうじょう かんせい いりはましきえんでん かんすい 1927年に最初の工場が完成し、いくつかの『入浜式塩田』の鹹水 いっかしよ あつ に そうち どうにゆう いこう せんごうそうち を1ヶ所に集めて煮つめる装置として導入されて以降、煎熬装置 しゆりゆう ふきゆう だいきほそうち の主流として普及しました。1971年(昭和46年)に大規模装置が どうにゆう げんざい いた 導入されて、現在に至っております。
しょうわ だいこうはん 昭和20年代後半 ～ 1972年(昭和47年)	りゅうかしきえんでん 『流下式塩田』 あ かいすい ねんど うえ じゃり なな りゅうかばん ポンプでくみ上げた海水は、粘土の上に砂利をしきつめた、斜めの流下盤 なが たいよう ちから すいぶん じょうはつ たけ つく をゆっくり流れ、太陽の力で水分が蒸発します。これを竹で作った しじょうか うえ すこ た かぜ ちから すいぶん じょうはつ こ 枝条架の上から少しずつ垂らすと、風の力で水分がさらに蒸発して濃 しおみず で き ひ よる かぜ こ しおみず で き い塩水が出来ます。くもりの日や夜でも風があれば、濃い塩水が出来る ようになりました。
1945年頃 (昭和24年頃)	しゅうせんちよくご がいこくえん ゆにゆう と しおぶそくたいさく かんたん てつづ しお 終戦直後、外国塩の輸入が止まり、塩不足対策として簡単な手続きで塩 せいさん きよか じきゅうせいえん ぜんこくかくち おこな の生産が許可される「自給製塩」が全国各地で行われるようになった。 さど まのわん りょうつわん あげはましきえんでん せいえん おこな (佐渡でも真野湾や両津湾で揚浜式塩田での製塩が行われる)
1949年(昭和24年)	せんばいきよく おおくらしょう ぶんりどくりつ あら にほんせんばいこうしゃ ほっそく 専売局が大蔵省から分離独立し、新たに日本専売公社が発足。
1957年(昭和32年)	くに しどう ぜんこく いりはましきえんでん りゅうかしきえんでん てんかん 国の指導により、全国の入浜式塩田は流下式塩田へ転換される。
1960年(昭和35年)	こうかんまくほう 『イオン交換膜法』 でんき かいすい なか しお あつ かんすい と ほうほう 電気エネルギーによって海水の中の塩を集めて鹹水を採る方法のイオ こうかんまくほう さいかん じつようか ン交換膜法による採鹹が実用化される。
1971年(昭和46年)	えんぎょう せいびおよ きんだいか そくしん かん りんじそちほう ぜんこく えんでん 「塩業の整備及び近代化の促進に関する臨時措置法」により全国の塩田 はいし あら こうかんまくほう せいえんきぎょう ぜんこく しゃ がすべて廃止され、新たにイオン交換膜法による製塩企業が全国で7社 きよか げんざい しゃ に許可される。(現在は6社)
1997年(平成9年)	しお せんばいせい はいし 4月 塩の専売制が廃止される。
2002年(平成14年)	しお はんばい かんぜん じゅうか 4月 塩の販売は完全に自由化される。
2003年(平成15年)	さどかざしおがま しおこうぼうかんせい 10月 佐渡風塩釜の塩工房完成。
2004年(平成16年)	しおこうぼう さどかざしおがま せいひん さど しお かんせい 2月 塩工房 佐渡風塩釜の製品 「佐渡の塩」完成。
	しおこうぼう さどかざしおがま せいひん ばなしお かんせい 4月 塩工房 佐渡風塩釜の製品 「おけさ花塩」完成。
	しおこうぼう さどかざしおがま せいひん さど さどもしお かんせい 5月 塩工房 佐渡風塩釜の製品 「佐渡のいがり」「佐渡藻塩」完成。

# 佐渡の塩作りの歴史

佐渡の塩作りも古代より製造されており、特に奈良時代後半から平安時代中期に隆盛を極め、佐渡式製塩土器という独自の進化がみられました。『日本紀略』の延暦二十一年(802年)正月の条に『佐渡國の塩百二十石を年毎に出羽國の雄勝城に送る。鎮兵の糧と為す』と記されています。その当時の朝廷(桓武天皇)が東北地方を支配するのに土着の蝦夷軍と戦うため、朝廷軍の兵士の食料として毎年、佐渡の塩を約6トン、秋田県にあるお城まで送っていたこととなります。(現在の佐渡の塩200g入りで29,160個)朝廷(日本)の領土拡大のため、中央政権の指示のもと佐渡に当時の最新技術をもった巨大な製塩施設が存在したと考えられます。

※ 当時の単位制度 702年(大宝元年)の大宝令で1升(令大升)=近代升で約0.405升  
 〈佐渡の塩1合=120g〉(1石=10斗・1斗=10升・1升=10合)

遺跡を調べてみますと(右記参考)そのほとんどが旧相川町の西海岸に密集しております。地形上、大きな川もなく、山に面しており、煎熬作業に必要な燃料である薪の調達が便利だった事が起因と考えられます。

夫婦岩の周辺には直径5mもの製塩炉(かまど)の跡が数箇所ほど確認されております。

NO	種別	名称	所在地	時代	備考
63	洞窟遺跡	岩谷口	岩谷口	古	H14位置変更
64	古墳	岩塚古墳	大浦字岩塚	古	
65	古墳	台が鼻古墳	米郷字台の鼻551	古	
66	古墳	稲鯨古墳	稲鯨字下の原223	古	
67	古墳	宮の浦古墳	橋字宮の浦190	古	
68	古墳	橋古墳	橋字宮の浦191-1	古	
69	製塩跡	釜の元遺跡	関字釜の元	古	
70	製塩跡	関公民館前遺跡	関	古	
71	製塩跡	小田浜田遺跡	小田字浜田	古~奈	地点不明
72	製塩跡	小田南遺跡	小田	古	
73	製塩跡	小僧の川遺跡	小田字宮下	古	
74	製塩跡	アンジャの浜跡	石名字アンジャの浜	古	
75	製塩跡	北河内熊野内跡	北河内	古	
76	製塩跡	薬浦岬遺跡	北片辺字廟所	古	
77	製塩跡	中ノ川遺跡	南片辺字鹿ノ浦1133	古	
78	製塩跡	井戸島の根遺跡	戸地852	古~平	
79	製塩跡	向遺跡	達者字向436	古	
80	製塩跡	釜屋遺跡	達者字釜屋611-1	古~平	
81	製塩跡	達者中村遺跡	達者字中村579	古~平	
82	製塩跡	吹上遺跡	下相川字吹上	古	
83	製塩跡	どろの潤遺跡	鹿伏	古	
84	製塩跡	かまんど遺跡	大浦かまんど712	古	
85	製塩跡	大漁遺跡	高瀬字浜端	古	
86	製塩跡	助岩岩陰遺跡	高瀬字浜端	古	
87	製塩跡	塩ヶ崎遺跡	高瀬字川端1225	古	
88	製塩跡	鬼ヶ岩遺跡	高瀬字浜端	古	
89	製塩跡	日観音堂遺跡	橋字浜戸	古	
90	製塩跡	浜戸遺跡	橋字浜戸	古	
91	製塩跡	杉島岩陰遺跡	橋字滝ノ上1338	古	
92	製塩跡	紋兵衛遺跡	橋字差輪浜戸630	古	
93	製塩跡	差輪遺跡	橋字差輪浜戸626	古	

種別	<del>遺物包蔵地</del>	名称	大魚遺跡	時代	先・縄・弥・古・(X)・新・古・平・鎌・南・室・安・江
所在地	佐渡郡相川町大字高瀬字浜端			指定	
土地所有	国・公( )・(X)	現状	原野	地図	河原田 価値 I・II・III
遺跡の概要	立地	海浜(大高小学校前の海岸跡地)		出土品	佐渡式製塩土器片
	範囲	25 x 50 m			土師器片
	形態				
	時代				
概要	遺構	直径5mほどの浅皿状の製塩炉とあわす包合層が数箇所あった。大規模のものが残っている。			
	特徴	砂利採取工事で包合層は消滅した。			
	その他				
調査	発掘・測量	調査者	調査年	明・大・昭年	所蔵・保管場所 相川郷土博物館
調査年月日	昭和 48年 8月 12日	調査員	平田英明	補充カード	有 (無) 枚

種別	<del>遺物包蔵地</del>	名称	塩ヶ崎遺跡	時代	先・縄・弥・古・(X)・新・古・平・鎌・南・室・安・江
所在地	佐渡郡相川町大字高瀬字川端1225			指定	
土地所有	国・公( )・(X)	現状	原野	地図	河原田 価値 I・II・III
遺跡の概要	立地	海岸段丘崖下跡原		出土品	佐渡式製塩土器片
	範囲	海岸より70mはなれた段丘崖下の推積跡原。碑の推積中切			土師器片
	形態	遺物が出土する。			須恵器片
	時代				墨書土器(須恵器片)
概要	遺構	包合層は碑中より行く所から合はれてはいる。			
	特徴	砂利採取のため包合層はくずされている。			
	その他				
調査	発掘・測量	調査者	調査年	明・大・昭年	所蔵・保管場所 相川郷土博物館
文献	「二見半島考古史調査報告書第一輯」相川郷土博物館報第5号				
調査年月日	昭和 48年 8月 13日	調査員	平田英明	補充カード	有 (無) 枚

また、1945年の太平洋戦争の終戦前後には揚浜式塩田による製塩が両津湾と真野湾で行われました(自給製塩)がその後国による専業塩業が回復するにしたいが、しだいに姿を消していきました。

しおこうぼう さどかざしおがま しお つく かた  
塩工房 佐渡風塩釜での塩の作り方

さどがしま せいたん ななうらかいがん めおといわ かいすい ひょうそうすい こざかな  
佐渡ヶ島の西端、七浦海岸・夫婦岩の海水100%で、表層水(サザエやワカメや小魚がいる  
てんねん ぶん ひじょう おお かいすい まき ねんりょう た あ  
天然ミネラル分が非常に多い海水)で薪を燃料として炊き上げております。

しまぐに とくちょう おお かわ つしまだんりゅう かんりゅう おきあ あ  
また、島国の特徴で大きな川がない、対馬暖流とリマン寒流が沖合いでぶつかり合っ  
りてん い ぶん おお わたしたち げんき あた  
ている、このような利点を生かし とってもミネラル分が多いまろやかな私達に元気を与えら  
せいぶんひかくひょうさんこう しお かんせい  
ていただける(成分比較表参考)おいしいお塩が完成いたしました。

かいすい 3 ごうかま かいすい ひ こ  
①海水タンクからⅢ号釜に海水が引き込まれます。  
かいすい やく みず えんぶん  
海水は約97%が水で3%が塩分です。

えんぶん じゅんじ こ しおみず  
②塩分を順次濃い塩水にするために(かん水と言います)  
まき た あ 2 ごうかま はい  
薪でどんどん炊き上げてⅡ号釜に入ります。  
せんごう い  
(煎熬と言います)

2 ごうかま さいしゅうしあげ 1 ごうかま  
③Ⅱ号釜より最終仕上のⅠ号釜に入ります。  
まき やく じかん しお  
薪を炊きはじめて約30時間、きれいなお塩ができます。

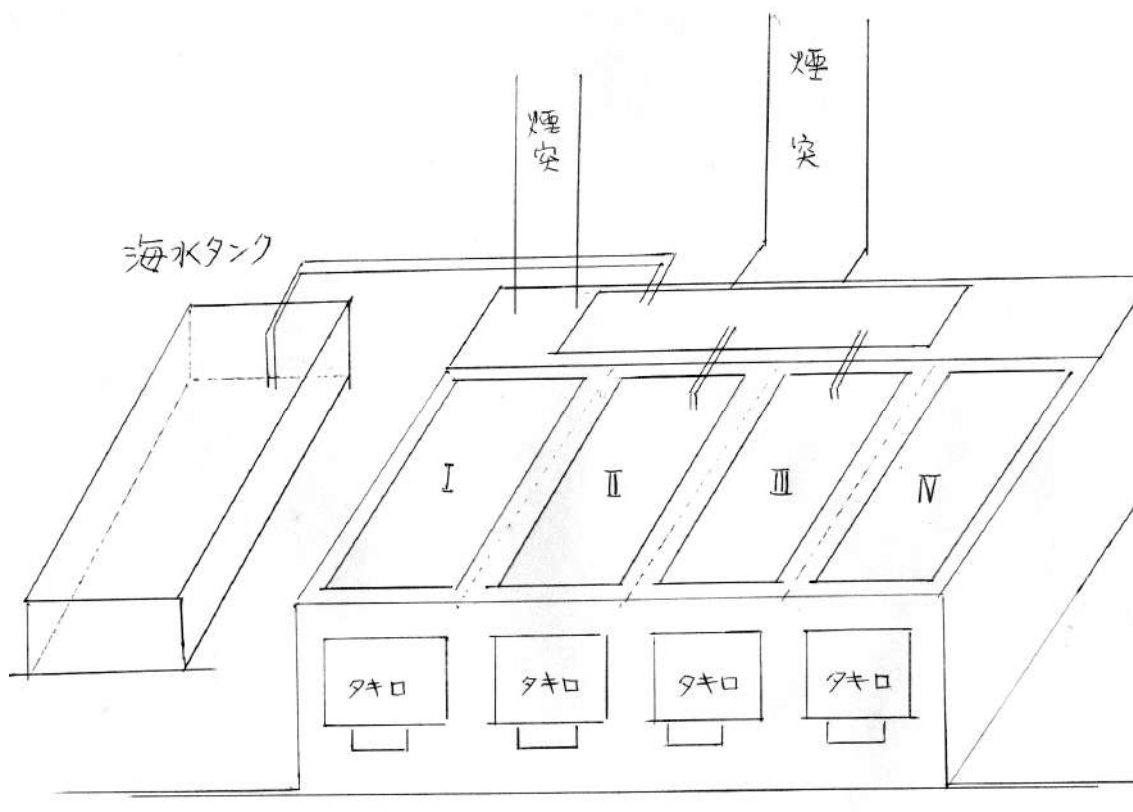
1 ごうかま できあ しお と だ すいぶん なま い  
④Ⅰ号釜で出来上がったお塩を取り出し水分(生にがりと言います)を  
かんぜん き かんかんそう  
完全に切るために1日から2日間乾燥します。

なま かげつかんぐらいじゆくせい  
⑤生にがりを2ヶ月間位熟成させます。

せいひん しお ふくろ つ かんせい  
⑥製品として塩は袋に詰め完成いたします。

えきたい じゆくせいご つ かんせい  
⑦液体のにがりは熟成後ボトルに詰め完成です。

4 ごうかま かいそう たまも ながも さどもしお つく  
⑧Ⅳ号釜では海藻の玉藻・あらめ・長藻で佐渡藻塩を作っております。



主要成分 分析比較表 (100g 当り)		
	佐渡の塩	食 塩
カルシウム	860m g	20m g
カリウム	850m g	90m g
マグネシウム	2,400m g	15m g
亜鉛	0.1未満m g	0m g
鉄	0.1m g	0m g
銅	0.02m g	0m g
リン	1未満m g	0m g
ナトリウム	24,200m g	39,200m g
食塩 (Na 換算)	61.5g	99.7g
新潟県環境衛生研究所調べ・塩事業所センター資料参照		



# めおといわ でんせつ 夫婦岩の伝説

## DATA (データー)

む ひだり おんな たか みぎ おとこ たか  
向かって左が♀ 高さ 23.1m 右が♂ 高さ 22.6m

りゅうもんがんしつ ぎょうかいがん かざん ふんしゅつ かいてい かざんかつどう たいせきぶつ  
流紋岩質の凝灰岩で火山の噴出による海底の火山活動の堆積物。  
きげんぜん ねんまえ しんたい きちゅうしんせいごろ けいせい かんが  
紀元前1400年前の新第3期中新世頃に形成されたと考えられます。

## 伝説 (でんせつ)

ふともじ ようご かいせつ  
※太文字は用語の解説があります。

はなし こじき きさい しまつくり せかい  
話は「古事記」に記載してある、島造りの世界までさかのぼります。

いざなぎのみこと いざなみのみこと こくど かみ う くだり あわじしま しこく おきのしま きゅうしゅう い き つしま  
伊弉諾尊と伊弉冉尊が国土や神を生む行で、淡路島→四国→隠岐島→九州→伊伎島→津島→  
さどがしま ほんしゅう しまじま にん かみがみ たんじょう しゅっさん じもと のこ い  
佐渡ヶ島→本州など14の島々と35人の神々を誕生(出産)させたとありますが、地元に残る言

つた こもんじょ  
い伝えや古文書によりますと

たかまのはら あま かみ しまじま かみがみ う しじう おっと つま  
高天原にいる天つ神に島々と神々を生むよう指示を受けた夫・イザナギノミコトと妻・イザナ

ミノミコトではありますが、妻が七番目の佐渡ヶ島を産み終えた頃、疲れ果てた妻の姿を夫は

かわいそうに思い、妻から毛髪と唾液を貰い、自身の血潮と混ぜ合わせ、自分らの分身(後の

めおといわ ねこ のち ねこいわ つく たかまのはら め とど さどがしま にしがわ かく ねこ かみがみ  
夫婦岩)と猫(後の猫岩)を創り、高天原から目の届きにくい佐渡ヶ島の西側に隠し、猫を神々の

みはり やく のこ しまじま かみがみ さどがしま きゅうそく つま  
見張り役にし、残りの島々と神々を分身より誕生させ、佐渡ヶ島で休息をとりながら妻・イザ

ナミノミコトをいたわったとあります。しかし、分身の「夫婦岩」が火之夜芸速男神を誕生

させようとしたある日、見張り役の猫が退屈のせいか大きなあくびをしてみました。そのあ

くびの声が高天原にも届き、分身のことも天つ神に見つかってしまいました。怒った神様は、ま

かみがみ み は やく ねこ いわ か ふたりの の ふね  
ず神々の見張り役をしていた猫を岩に変え、イザナギ・イザナミノミコトの二人が乗っている舟

いわ か し おそ だっと こうねつ  
を岩に変えました。それを知り、恐れおののいたヒノヤギハヤヲノカミは、脱兎のごとくを光熱

はっ じょいん もど ふた たいない たんじょう ていさい つくろ  
を発しイザナミノミコトの女陰に戻り、再びイザナミノミコトの体内より誕生し、体裁を繕

ったのであります。そして不運にも、ヒノヤギハヤヲノカミの発した光熱により分身も赤茶色

にただれ、またイザナミノミコトの女陰も例外ではなく、この事が原因でイザナミノミコトは病

ふ よみ くに しりぞ  
み臥せり黄泉の国へと退いたとあります。

めおといわ ちめい たかせ か よ たか たかまのはら たか ち  
 夫婦岩のある地名を「高瀬」と書いて「タコセ」と読みますが、高は、高天原の高で、この地は  
 たかまのはら むす ばしよ たかまのはら せ とおりみち ばしよ  
 高天原と結ぶ場所であり、高天原へとつづく瀬〈通り道〉がある場所であるといわれております。

よ かた たこ たこ うみ にんじゃ い からだ かたち  
 いっぽう、読み方の「タコセ」のタコは蛸であり、蛸は海の忍者とも言われるように、体の形  
 いろ じざい か たこ けしき か ばしよ い  
 と色を自在に変えることができ、蛸のように景色を変えられる場所であったと云われております。

なに けしき か い つた たかまのはら  
 では、何のために景色を変えなければいけなかったのか？言い伝えによりますと、高天原の  
 あまつかみ み  
 天つ神に見つからないようにとあります。

ふ あらた めおといわ しゅうへん み けしき か とちゅう  
 このことを踏まえ、改めて「夫婦岩」周辺を見てみますと景色を替える途中だったのであろう  
 いろいろ いろ いわ てんざい めおといわ おんないわ われめ まわり あかちいろ きたがわ  
 か色々な色の岩が点在し、夫婦岩も女岩の割れ目の周りだけが赤茶色くなっており、北側には  
 ねこいわ の い ほ いわ しんわ せかい  
 「猫岩」やイザナギ・イザナミノミコトが乗ったと云われる「帆かけ岩」もあり、神話の世界も  
 げんじつみ お ふた おお いわ ふきん やよいじだい いせき はまはたどうくついせき  
 現実味を帯びてきます。 また、二つの大きな岩の付近は、弥生時代の遺跡(浜端洞穴遺跡)が  
 ふた おお いわ あな とうじ かいがら ほね しゅつど びと かみがみ  
 あり、この二つの大きな岩にある穴からも、当時の貝殻や骨が出土しています。いにしえ人も神々  
 そくせき き ち えら  
 の足跡に気づき、この地を選んだのでしょうか。

ころ ふた おお いわ えんむす あんざん かみさま あが めおといわ よ  
 いつの頃からか、二つの大きな岩は縁結びと安産の神様と崇められ、「夫婦岩」と呼ばれるよ  
 げんざい いた  
 うになり現在に至っています。

ぶんしん う しまじま かみがみ ぶんしん めおといわ にん う しま かみ い  
**分身が産んだ島々と神々** 分身(夫婦岩)は25人を産んだ(7島18神)と云われております。

1	大倭豊秋津(おほやまととよあきづ)	14	大屋毘古神(おほやびこのかみ)
2	吉備児島(きびのこじま)	15	風木津別之忍男神(かざもつわけのおしをのかみ)
3	小豆島(あづきじま)	16	大綿津見神(おほわたつみのかみ)
4	大島(おほしま)	17	速秋津日子神(はやあきつひこのかみ)
5	女島(ひめじま)	18	速秋津比売神(はやあきつひめのかみ)
6	知訶島(ちかしま)	19	志那都比古神(しなつひこのかみ)
7	両児島(ふたごしま)	20	久久能智神(くくのちのかみ)
8	大事忍男神(おほことおしをのかみ)	21	大山津見(おほやまつみのかみ)
9	石土毘古神(いはつちびこのかみ)	22	鹿屋野比売神(かやのひめのかみ)
10	石巢比売神(いはすひめのかみ)	23	鳥之石楠船神(とりのいはくすふねのかみ)
11	大戸日別神(おほとひわけのかみ)	24	大宜都比売神(おほげつひめのかみ)
12	天之吹男神(あめのふきをのかみ)	25	火之夜芸速男神(ひのやぎはやをのかみ)
13	天之吹男神(あめのふきをのかみ)		

## 夫婦岩伝説の用語解説

## 【古事記】こじき

げんそん にほんさいこ れきししょ しんわ でんせつ たすう かよう ふく てんのう ちゅうしん  
 現存する日本最古の歴史書。神話・伝説と多数の歌謡とを含みながら、天皇を中心とする日本の統一の由来を物語っている。

## 【伊弉諾尊】いざなぎ - の - みこと

にほんしんわ あま かみ めい う とも はじ こくど かみ う  
 日本神話で、天つ神の命を受け伊弉冉尊(イナミノミコ)と共に初めてわが国土や神を生み、  
 さんかい くさき おがみ  
 山海・草木をつかさどった男神。

## 【伊弉冉尊】いざなみ - の - みこと

にほんしんわ はいぐうめがみ つま ひ かみ う し おつとかみ  
 日本神話で、伊弉諾尊(イナミノミコ)の配偶女神(妻)。火の神を生んだために死に、夫神と  
 わか す  
 別れて黄泉国(ヨミクニ)に住むようになる。

## 【行】くだり

もじ たて よこ なら  
 文字などの、縦または横の並び。

## 【古文書】こ-もん-じよ

古い文書。

## 【高天原】たかま - の - はら

にほんしんわ あま かみ てんじょう くに  
 日本神話で、天つ神がいたという天上の国。たかまがはら。

## 【天つ神】あま - つ - かみ

てん かみ たかまのほら かみ  
 天にいる神。高天原の神。

## 【血潮】ち-しお

たいない しお なが ち はげ じょうねつ かんじょう  
 体内を潮のように流れる血。激しい情熱や感情。

## 【分身】ぶん-しん

めおといわ ひだり みぎ  
 のちの夫婦岩のこと。左がイザナミノミコトで右がイザナギノミコト。

## 【火之夜芸速男神】ひのやぎはやを - の - かみ

にほんしんわ いざなぎ いざなみにしん こ ひ かみ か ぐつちのかみ べつめい  
 日本神話で、伊弉諾・伊弉冉二神の子。火をつかさどる神。迦具土神の別名。

## 【恐れおののく】おそれ-おののく

ひじょう おそ  
 非常に恐ろしがる。

## 【脱兎】だつと

に い うさぎ てん ひじょう はや  
 逃げて行く兎。転じて、非常に速いもののたとえ。

## 【光熱】こう-ねつ

つよ ひかり たか ねつ  
 強い光と高い熱。

【女陰】じょいん  
じょせい せいしよくき  
女性の生殖器。

【体裁を繕う】ていさい-をつくろう  
しつぱい  
失敗などがわからないように、みかけ・うわべをととのえる。

【病み臥せり】やみ-ふせり  
びょうき ところ  
病気になるし床につくこと。

【黄泉の国】よみ-のくに  
しご たましい い ところ ししや す しん くに  
死後、魂が行くという所。死者が住むと信じられた国。

【退く】しりぞく  
おおやけ しよくむ いんたい  
公の職務から引退すること。

【弥生時代】やよい-じだい  
じょうもんじだい つづ きげんぜん5せいきころ きげんご3せいきころ やく ねんかん たいりく ちょうせん  
縄文時代に続き、紀元前五世紀頃から、紀元後三世紀頃までの約800年間。大陸・朝鮮の  
ぶんか えいきょう いなさく ともな のうこうようせつき きんぞくき  
a 文化の影響で稲作、それに伴う農耕用石器、金属器などがもたらされた。

【遺跡】い-せき  
ひと せいかつ  
のこされた、むかしの人の生活のあと。

【いにしえ人】いにしえ-びと  
ひと  
むかしの人。

【縁結び】えん-むすび  
だんじょ えん むす けっこん  
男女の縁を結ぶこと。(結婚)

【安産】あんざん  
くる しゅつさん ぶじ さん  
苦しまないで出産すること。無事にお産をすること。

【崇める】あがめる  
うえ あつか そんけい うやま  
この上ないものとして扱う。尊敬する。敬う。

「めおと岩」にまつわる言い伝え

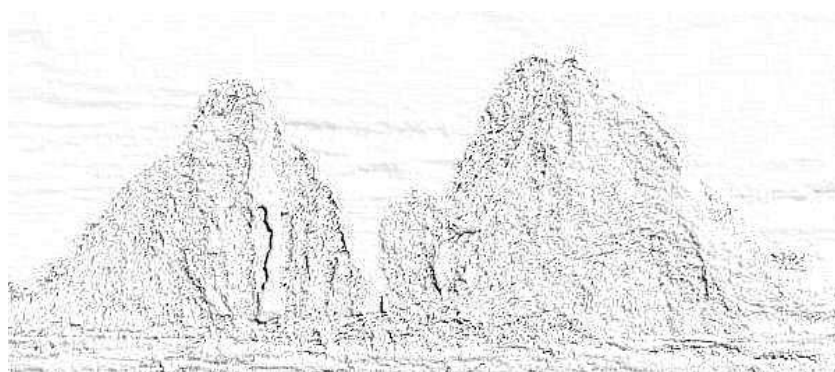
1. 大潮の日に、めおと岩にある洞窟で愛を交じわると子宝に恵まれる。(最初に男が入り声を出して女の名を呼んでから女が入り、最中に声を発しては、ならない。)
2. 「めおと岩」に打ち上げられる小石を持ち歩くと、好きな人と結ばれる。

辛丑條、宜參攷  
蘇令集解  
其日、紀畧作上  
日

于疫、逸史作旱  
疫

己未朔。乙丑。詔曰。云々。陸奧國蝦夷等。歷代涉時。侵亂邊境。致路百姓。是以從四位上坂上田村麿大宿禰等遣天。伐平掃治。云々。田村麿授從三位。已下授位。○丁卯。天田親王冠。贈皇后后。高津大宅三內親王加并。○日成十二月辛丑。制。賜諸王祿。无勘。上日。至子得官。計日乃給。其日不足者。依法無賜。

壬廿一年正月戊午朔。廢朝。雪也。○甲子。陸奧國三神加階。緣征夷將軍奏靈驗也。○乙丑。加征夷軍監已下軍士已上位勳。各有等級也。是日。勅。駿河相模國言。駿河國富士山。晝夜恒燎。砂礫如霰者。求之下筮。占曰。于疫。宜令兩國加鎮。謝。及讀經以攘灾殃。○丙寅。遣從三位坂上大宿禰田村麿。造陸奧國勝澤城。○戊辰。勅。官軍薄伐。關地瞻遠。宜發駿河。甲斐。相模。武藏。上總。下總。常陸。信濃。上野。下野等國。湊入四千人。配陸奧國勝澤城。○庚午。越後國米一萬六百斛。佐渡國鹽一百廿斛。每年運送羽國雄勝城。爲鎮兵糧。是日。勅。今聞。三論法相二宗。相爭各專一門。彼此長短。若偏被抑。恐有衰微。自今以後。正月最勝王經。并十月維摩經二會。宜清六宗。以廣學業。○甲戌。御馬埦觀射。○乙亥。美作國獻白鹿。賜獲人稻五百束。○己卯。任官。○甲申。任官。○二月戊子朔。幸神泉。○癸巳。幸神泉。各泛舟。曲宴。○己亥。幸神泉。○癸卯。幸神泉。○三月丁卯。幸神泉。○己巳。遊獵水生野。○癸酉。任官。○四月庚子。造陸奧國勝澤城使田村麿等言。



塩工房 佐渡風塩釜  
めおと岩観光株式会社

〒952-1645 新潟県佐渡市高瀬1267-5

TEL 0259-76-2511 FAX 0259-76-2513

<http://meoto.net/>

E-mail [info@meoto.net](mailto:info@meoto.net)